

進路指導部だより

令和6年10月31日 No. 3
東京都立村山特別支援学校
校長 阿部 智子
担当 屋森 光子

今号では、キャリア教育の充実を図るために夏季休業期間を活用して実施した教職員の夏季進路研修会や9月に実施した高等部3年生による進路報告会について報告します。

夏季進路研修会（7月22日） 本校教員対象

本校の外部専門家であり、東京都の就労支援アドバイザーを務めておられる、障害者就労・生活支援センターあすく就労コーディネーター若杉哲文様を招き、「特別支援学校におけるキャリア教育の実際」について研修しました。研修会後半は、一般就労や進学、就労継続支援事業所、生活介護事業所と3つの進路先のグループに分かれ、高等部での現場実習の実際や進路指導の事例を通じ、「進路選択の幅を広げるために小・中・高等部段階で育む力」というテーマで討議し、学び合いました。講演の内容と教員の感想の一部を紹介します。後期の学校生活や学習指導においても、キャリア教育の視点を持ち、御家庭と連携しながら、一人一人の課題に合わせて指導を行っていきます。

★講演の内容

キャリアとは、「働く」「仕事に就く」という狭義の概念だけでなく、「人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出ししていく連なりや積み重ね」であり、児童・生徒のより自立的で主体的な生活態度や肯定的な自己理解を育てていくことである。

特別支援学校におけるキャリア教育とは、自分で行えることを増やし、役割を果たそうとする態度・意欲「勤労観」と主体的に自らの生き方や、進路選択ができる能力・態度「職業観」の2つを障害の特性や発達段階に応じて醸成する教育である。

学校は、児童・生徒にとって、信頼できる大人の見守りがあり、失敗が許容され、力いっぱい活動ができ、達成感を得ることができる場である。教職員は、児童・生徒、保護者の思いや願いを支え、その実現に向け、適切な支援ができるよう小学部から組織的・系統的にキャリア教育を推進していくことが大切である。

★教員の感想

- ・会社や施設においてコミュニケーションをとり、信頼関係を築いていく上でも、挨拶や返事を行う、時間を守るなどの基本的な態度を身に付けることは大切であると感じた。教員として模範となる言動を心掛け、児童・生徒への指導を継続していく。
- ・「働く」は、小学部段階では遠く感じるが、生活の中で「役割をもつ」と捉えようと、ぐっと身近に感じられた。学校生活においても、役割をもち達成感を感じられる学習経験を積めるようにする。
- ・「通う所がある」「会いに来る人がいる」ということも、児童・生徒の生活リズムを作り、整えていくことにつながるということを改めて考えさせられた。
- ・児童・生徒にとって、人生のそれぞれの時期において、挑戦したり成就したりする経験や自分の役割を意識して行動できるよう機会を設け、自己有用感が感じられる学校生活を作っていく。
- ・生活を豊かにするために、好きなことや一人でも楽しめることを増やしていくことや意思表示が大切になっていくため、担当児童の好きなことを日頃から発見・模索していき、中学部や高等部へつながる支援・指導を行いたい。



高等部実習報告会（9月9日） 高等部全グループ 中学部BCグループ対象

高等部3年生は、1学期に実施した現場実習について成果や課題について報告しました。実習報告会は、発表原稿やスライドの作成や発表練習を行う中で、どのような会社や施設が自分に合っているのか、希望する卒業後の生活の実現に向けて何が課題なのか、課題解決に向けてどのように取り組むかを担任と共に考え、現場実習を振り返る学習です。また、発表を聞く生徒たちにとっては、高等部における現場実習の実際を知り、理解を深めると共に、自身の進路について関心を持ち、進路先の検討や現場実習へ向けての目標について考える機会と位置付け、年2回実施しています。発表を見聞きして意欲を高めた生徒や未知の学習に少し不安を感じた生徒もいました。それぞれの気持ちや考えを担任と共有し、施設見学や現場実習へ向け、前向きで主体的な気持ちや態度を育てていきます。



参加した生徒たちは、先輩の発表を熱心に見聞きしました。



自ら作成した原稿を音声ソフトで再生し、実習の成果や今後の目標を発表しました。